

# 「光の都」神戸を市長に提言

平成23年度予算に調査費を計上 「まやビューライン」存続を前提に調査



民主党市議員団は滞在型夜景観光のまちづくりを進めるため、1年余の歳月をかけてグループに分かれた他都市の取り組み調査や、市内夜景スポットの調査・視察を行うと共に、具体性・現実性を持った光のグランドデザイン提言に向けて、客観的な目線による分析とプロの手による素案作成のため、光景観のデザイン会社に調査委託を実施しました。そして、このたび、滞在型観光のメインテーマとしての「光の都」神戸について市長に提言を行いました。

具体案としては

## ★ 山・街・海を結ぶ光のしかけ

神戸市役所、ポートタワー、神戸大橋の3つを光のランドマークとする。市役所からは「山」を、ポートタワーからは神戸港・「海」を照らす。

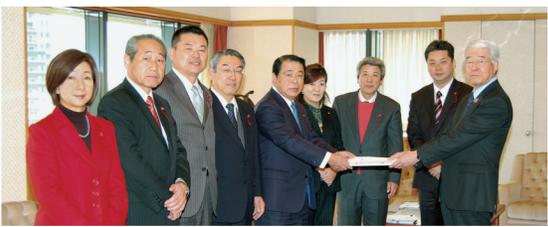
## ★ 時間軸のある光のしかけ

時間軸を持たせ、例えばPM8:00～PM8:15を「神戸時間」とし、時間軸を使った光の演出を随所で行う。

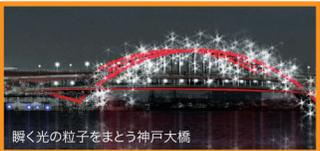
## ★ 歴史的・伝統的建築物のライトアップ

旧居留地や北野などの神戸らしい景観を作っている歴史的・伝統的建築物を抽出し、ライトアップの推進と回遊動線も含め、体系的に見直しを行う。

また、省エネ化・低炭素化の研究や、視点場の開拓とアクセスに留意しつつ具体案を進めることや、グランドデザインの実現のため、「まちのデザイン室」の下に、有識者を含む諮問機関、「光のグランドデザイン推進委員会」を設置し、官民協働で推進されることを提言しました。  
市長からは、例えば橋でのライトアップ等出来るだけ早くできる所から行っていき、提言の具体化に努めていくとの見解が表明されました。また、民主党市議員団は「光の都」神戸の推進に欠かすことのできない「まやビューライン」の存続を強く要望してきましたが、このたび平成23年度予算の中で存続を前提に調査・検討を実施することになりました。



## 「神戸時間」になると



## ▶ 第一回神戸マロン 平成23年11月20日(日)開催決定

テーマは感謝と友情 —Thanks & Friendship— 感謝の気持ちを市民みんなが 温かい“おもてなしの心”で

## 民主党神戸市議員団がこれまで提案してきた市民マロンが実現しました。

日本におけるマロン発祥の地は神戸。その神戸は、16年前の阪神・淡路大震災後の、復旧から復興の過程で、国内外の多くの人々から支援や励ましをいただきました。その感謝の気持ちとして、マロンを通じて神戸の復興を肌で感じていただくと共に、沿道応援や大会運営参加、ボランティア活動などで、心からのおもてなしの気持ちでお迎えすることがテーマです。

制限時間は最大7時間で、国内外から約2万人のランナーの参加を見込み、約6千人のボランティアが大会の運営を支えます。より多くの方が参加できるようにクォーター(1/4)マロンやファミリーの部など、フルマロンが難しいランナーも参加できるようになっています。神戸マロンをみんなで盛り上げましょう!



## ▶ 神戸市は財政再建を着実に進めます

阪神・淡路大震災の復旧に、神戸市内だけで7兆円を越す費用が使われました。神戸市は、約3兆円を負担し、このうちの1兆3千億円が神戸市の借金として残りました。震災後、5,564人の職員削減、6000億円の市債削減を実施しました。しかし、平成21年度決算における義務的経費(人件費・扶助費・公債費)の占める割合が50.9%と硬直的な状況にあります。歳入決算額7,826億円のうち、市税収入は2,731億円の34.9%です。(※扶助費とは、生活保護費や保育所の運営費など社会保障費や高齢者などを援助するための経費を言います。)

行財政改革に終点はありません。時代に即応した無駄の無い行政執行が重要です。

今後更に、職員の1600人削減、外郭団体の10団体以上の削減に取り組みます。

## 総額2億9百万円余の不適正経理処理が判明 → 再発防止にどう対応するか

元環境局職員による不正事件(私的な横領事件)が発覚後、全市における経理処理の実態調査を実施したところ、私的流用の疑いがあるもの、また公金の支出として不適切なもの、備品等の差替えて現物確認できないもの等で約290万円が判明。その他にも、公務遂行に必要なものを購入しているが「不適正な経理処理と認められたものが2800件、2億600万円余が判明。公金を扱っているとの認識の薄さが極めて問題であり、市民の信頼回復にむけ、いかに再発防止に取り組んでいくか、外部委員による検討委員会の方向づけにも留意しながら、議会としても一定の方向づけを示していく必要があると考えています。

## ▶ 神戸港を中心とした阪神港が「国際コンテナ戦略港湾」に選定される

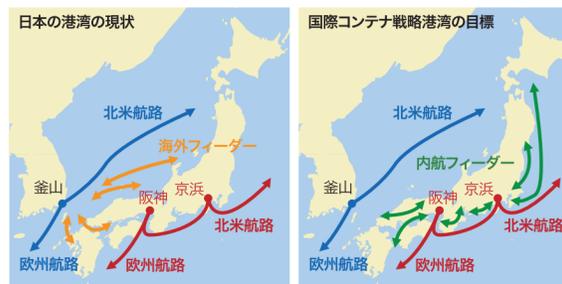
### 西日本の総物流拠点として、産業と暮らしを支える港に

政府は国内主要港を対象に重点投資する「国際コンテナ戦略港湾」を選定する方針を打ちだし、昨年8月、神戸港は大阪港と合わせ阪神港として、京浜港(東京港・横浜港・川崎港)と共に選定されました。

これにより、神戸港と九州・瀬戸内地方を結ぶ航路の運航費の支援や、ターミナル利用料の低減などを行い、阪神淡路大震災以降、韓国釜山港に流出している西日本の貨物を内航フィーダーの拠点として神戸港(阪神港)に集約し、東アジアの国際拠点港として復権させます。

また、神戸港・大阪港の両埠頭公社を2011年に株式会社化し、2015年を目途に経営統合することにより、民間視点での自立的経営をめざします。

神戸港の貨物量が増えれば、企業の進出などで雇用が生み出されるほか、輸送費の低下によって物価が下がるなどの効果も考えられ、港の機能強化によって神戸経済の活性化につながります。



## ▶ 道路・交通網の整備で市民の足の確保を

### 経済競争力を高めるための 広域幹線道路網の整備を要望

阪神高速道路については、利用しやすい料金体系とともに、阪神西圏の高速道路ネットワーク充実のために、新神戸トンネルと阪神高速道路のネットワーク化の実現にむけて国等への働きかけをすると共に、距離別料金制の導入にあたっては、激変緩和措置を講じること等を要望し、この度、要望にそった方向づけが示されました。

### 神戸電鉄粟生線の活性化支援と抜本的存続策を

粟生線は、沿線の小野市、三木市、神戸市などにおける市民の通勤や通学など市民生活に欠かせない鉄道路線であり、公共交通ネットワークを形成する重要な基幹路線です。国の「地域公共交通活性化・再生総合事業計画」に認定され、関係自治体等と活性化協議会を立ち上げ、様々な利用促進のための支援策を平成22年度から2か年の予定で実施することになりました。今後は、抜本的な存続策について、関係者間で早急に協議を進めていくことが重要です。

### 阪神三宮駅改良事業の予算確保を要望

「阪神三宮駅」は神戸の玄関口のひとつとして大きな役割を担っており、平成21年3月20日からは阪神・近鉄の相互直通運転が開始され、神戸・奈良間の広域流動も発生しております。しかし、現在の駅は、西側一箇所しか改札口がなく、ラッシュ時の混雑や、火災など災害・事故発生時の避難上の問題、バリアフリー化や乗換えの円滑化など多くの課題を抱えています。

平成24年度中の完成をめざして東改札口の 신설、西改札口の改良、構内配線の変更、ホームの幅幅延伸及びエレベーターの設置などの整備を進めています。さらに駅周辺施設との連携においても、新設する東改札口を地下通路に接続させることにより、三宮に新たな東玄関口が形成されます。都市再生の誘発効果が大きい期待されることから、予算確保を強く要望しました。



## ▶ 次世代を担う子どもたちへの予防医療の充実と救急医療体制の充実

### 子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌の 3つのワクチン接種が無料

(対象期間は平成23年1月1日～平成24年3月31日まで)

国のワクチン接種緊急促進事業の実施により、国が接種費用の1/2を負担するのを受け、神戸市で残りの1/2を負担します。上記の3種類のワクチン接種は、予防効果の高い年齢層にワクチン接種することにより、病気の発症や重症化を防ぐことになります。子宮頸がんは女性特有のがん、ヒブ・小児用肺炎球菌は、乳幼児に死亡又は重篤な後遺症を残すことのある細菌性髄膜炎等を引き起こす恐れがあります。

これ以外にも、①B型肝炎②水痘(水ぼうそう)③流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の3つのワクチン接種も公的負担の必要性が早急に求められています。

### 神戸こども初期急病センター診療開始

安心して子育てができるための小児救急医療体制づくりの一環として、昨年12月HAT神戸に開設しました。夜間や休日に急病になった子どもを、年中無休で診療し、夜間の診療は、翌朝7時(受け付けは6時30分)まで対応します。センターでは、まず治療の緊急度から診療の順番を決めます。

受付時間	月～金曜日 19:30～翌朝6:30 (診療開始は20:00から)
	土曜日 14:30～翌朝6:30 (診療開始は15:00から)
	日曜・祝日(年末年始) 8:30～翌朝6:30 (診療開始は9:00から)

〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸通1丁目4番1号

TEL: 078-891-3999



そして診療の結果、入院・手術が必要な場合は、適切な医療機関を紹介いたします。東の拠点はできましたので、今後は、西の拠点整備が課題です。

